

自主企画講座を中止

【県生涯学習センター「友愛塾」】

鯖江の男性、理由求める

市民から自主企画講座を募集して開く県生涯学習センターの事業で、同センターが鯖江市の男性の講座を中止し、この男性が21日、文書での理由説明を求める要請書を提出した。

講座は「友愛塾」の事業名で福井市の県生涯学習館で開いている。中止となったのは、東日本大震災の被災地で支援活動を経験した鯖江市の渡利一郎さんが「ボランティア活動から得たもの」と題して企画し計4回、開く予定だった。

1回目は11日に「大飯原発の定期検査を控え、真実を告白する」とのテーマでゲスト講師を招いて開催した。

これに対し県は▽講座内容が申請時の企画書と

「趣旨違う」県が講座中止

原発テーマ 講師が理由求め要請書

福井市下六条町の県生涯学習館（ユー・アイふくい）で開かれた原発問題を扱った連続講座が二回目以降、県によって中止されたことが分かった。担当講師は「表現の自由が侵害された」として二十一日、中止の理由を具体的に列挙するよう求める要請書を県に提出した。県は「講座の趣旨と違う」と反論している。

福井市下六条町の県生涯学習館（ユー・アイふくい）で開かれた原発問題を扱った連続講座が二回目以降、県によって中止されたことが分かった。担当講師は「表現の自由が侵害された」として二十一日、中止の理由を具体的に列挙するよう求める要請書を県に提出した。県は「講座の趣旨と違う」と反論している。

県民が講師となって開講する県主催の「友愛塾」の一講座。「ボランティア活動から得たもの、非営利活動と公共性」と題し、十日～六月一日の間に計四回開かれる予定だった。

八日に講座のチラシを見た県は「当初の内容と異なる」と問題視。渡利さんにチラシの配布の禁止と、報道機関に告知記事を掲載しないよう求めた。また「本人が県民講師となる」との友愛塾の趣旨に沿わないとして、「ゲスト講師の話を極力減らす」との条件もつけ開講させた。

職員も同席した十一日の第一回では、渡利

渡利さんは「県が主催でも自主運営でゲストを招いた。原発がテーマだから中止したとしか思えず、表現の自由を奪われた」と主張。

ユー・アイふくいの出蔵加津代副館長は「最初の企画趣旨と異なり、約束を守らなかつた。原発がテーマだから」と話している。

職員も同席した十一日の第一回では、渡利